

# バスケットボール競技における Fast break 発生条件に関する研究 -First Pass に着目して-

コーチング科学研究領域

5021A038-6 馬場 巧

研究指導教員：倉石 平 教授

## I. 諸言

倉石(2004)は「速攻(ファストブレイク)が出る条件を考えると、リバウンドを取ること、ファーストパスが速いこと、ファーストパスが長いこと、が不可欠な要因」と述べていることから、リバウンド(以下「REB」と略す)獲得から、いかに素早くファーストパス(以下「First Pass」と略す)を出せるかという点において、ファストブレイク(以下「Fast break」と略す)発生の有無が決まるのではないかと考える。

そこで本研究では、Fast break 発生条件における REB 獲得後のプレイでパスを選択した時の現象である First Pass に着目、First Pass 獲得時間に REB 獲得位置と First Pass 獲得位置を加味した上で、Fast break 発生の現状を明らかにすることを目的とした。

## II. 方法

### 1. 分析対象

第 97 回関東大学バスケットボールリーグ戦における 1 部全 66 試合(以下「男子」と略す)、第 71 回関東大学女子バスケットボールリーグ戦における 1 部全 25 試合および第 73 回全日本バスケットボール選手権大会における女子の全 32 試合(以下「女子」と略す)、計 123 試合を対象とした。

### 2. 分析項目

#### 1)Fast break の定義

ドリブルもしくはパスによってセンターラインを越えたとき、ボールラインからゴール方向にいるプレイヤーが 1on0 から 3on3 までを Fast break と定義した。

#### 2)Fast break 発生場面

スティール(以下「STL」と略す)、REB、ルーズボール(以下「Loose Ball」と略す)とその他(以下「Others」と略す)を項目とした。

#### 3)REB 獲得からの Fast break

REB 獲得からの First Pass に Dribble Push を項目として加えた。

#### 4)First Pass および Dribble Push の定義

REB 獲得からドリブル 0 回、ドリブル 1 回からのパスを First Pass と定義し、REB 獲得からドリブルを 2 回以上行い Fast break となった場合は Dribble Push と定義した。

#### 5)REB 獲得位置

ペイントエリアを 4 分割、ペリメーターを 3 分割、計 7 エリアを REB 獲得位置とした。

#### 6)First Pass 獲得位置

サイドレーンとミドルレーンを A Lane, B Lane, C Lane とし、ファウルライン/フリースローラインを延長し、それぞれのレーンを二分した。そこにフロントコート(以下「Front Court」と略す)を加えた。

#### 7)First Pass 獲得時間

REB 獲得から First Pass 獲得までの所要時間を 2 秒未満と 2 秒以上で記録、集計した。

### 3. 分析方法

各項目をタギングし、エクセルに集計した。そして、REB 獲得位置と First Pass 獲得位置をコートの縮図にそれぞれプロットした。また、プロットと REB 獲得からの First Pass 獲得時間の記録に関し、バスケットボール競技経験が 10 年以上の計 4 人で作業を行なった。

## III. 結果・考察

## 1. Fast break 発生回数

全体,男子および女子において,Fast break 発生条件で最も発生回数が多かった項目は STL,REB の順であった. 要因として,カテゴリーの違いとオフェンス効率が考えられる.

REB 獲得からの Fast break に着目すると,全体,男子および女子において 0 Dribble, Dribble Push の順で高い割合となった. パスとドリブルどちらにもリスクが存在しており,本研究においてはパスが選択されていたと考える.

## 2. REB 獲得位置における First Pass 獲得位置

### 1) ペイントエリアにおける First Pass 獲得位置

ペイントエリアにおいて,B Lane に傾向は見られず A Lane と C Lane で傾向が見られた. また,オフボールサイドのサイドレーンへの First Pass が少ないことがわかった. そして,ゴールから離れた位置で REB を獲得した場合には Front Court への First Pass が多い傾向が見られた. また,男子の勝敗上位・下位および平均得点上位・下位において,上位はゴール付近で REB 獲得後,ボールサイドのサイドレーンへの First Pass が有意に多く,オフボールサイドのサイドレーンへの First Pass は有意に少ない傾向が見られ,下位では見られなかった.

吉田(2014)は「ディフェンスは最短時間で戻ろうとするため,ミドルエリアを帰陣する.したがって,サイドライン沿いのパスは通りやすい。」と述べていることから,ボールサイドのサイドレーンへの First Pass が多く見られたと考える. また,ゴール付近での REB 獲得からオフボールのサイドレーンへと長く,速い First Pass を狙うには危険性が伴うため,オフボールサイドのサイドレーンへの First Pass は少ないのではないかと考える.

一方で,ゴールから離れた位置で REB 獲得した場合,ゴール付近の密集地帯とは異なり,比較的目の前のディフェンスが少なく First Pass が出せたのではないかと考える.

男子の上位において,6 チーム中 4 チームが REB 獲得数上位でもあるため,REB 獲得数がこのような結果となった一要因として考えられる.

### 2) ペリメーターにおける First Pass 獲得位置

ペリメーターにおいても,B Lane との傾向は見られず,REB 獲得位置 E・F においてサイドレーンとの傾向が見られた. また,REB 獲得位置 G では,Front Court への First Pass が多い傾向が見られた. そして,男子の勝敗上位・下位および平均得点上位・下位において,上位の REB 獲得位置 E・F ではボールサイドのサイドレーンへの First Pass が有意に多い傾向が見られ,REB 獲得位置 G では Front Court への First Pass が多い傾向が見られたが,下位では見られなかった.

ペリメーターにおいても,ペイントエリアと同様な要因が関係していると考えられる.

## 3. REB 獲得から First Pass 獲得までの時間

全体,男子および女子において REB 獲得から First Pass 獲得までの時間,2 秒未満と 2 秒以上で有意差が見られた. REB 獲得後に First Pass を素早く出させないように妨害するプレイが行われていないのではないかと考える.

## IV. 結論

Fast break 発生条件の前提として REB 獲得が重要であると考えられる. そして,ゴール付近で REB 獲得後はショートパス,Front Court に近いエリアで REB 獲得後はロングパスが出されていたことが明らかとなった. また,REB 獲得から First Pass 獲得までを 2 秒未満にすることにより,Fast break 発生が左右されるのではないかと考えられる.

女子に関して,本研究において有意差は認められなかった. 対象とした第 71 回関東大学女子バスケットボールリーグ戦において,幾つかの棄権試合が起きていたことも一つの原因として考えられるが,今後はさらに試合数を計上する必要があるだろう.

そして,男女を通じて Fast break が少ないことがわかった. 今後の研究では,複数のシーズンからデータを蓄積すること,Fast break の成功率や得点効率,大学以外のカテゴリーにおける Fast break の発生状況を把握することなどが課題としてあげられる.